

## 研究主題

# よりよい学級集団に向け、仲間と協働して主体的に取り組む児童の育成

## ～ 学級活動における事前・本時・事後のつながりを通して ～

前橋市立月田小学校 青木由香里

### I 主題設定の理由

新学習指導要領「特別活動編」では、「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す」としている。

また、県「学校教育の指針」では、「学級で話し合うべき必要感・切実感のある議題を設定することや、児童自身が充実感や存在感を味わえるような自発的・自治的な活動を取り入れること」と示されている。さらに、前橋市「各教科等指導の努力点」では、「必要感のある議題を基にした話し合い活動の充実」、「主体的な活動を通して、よりよい人間関係を築く態度の育成」と示されている。

本学級の児童は、素直で真面目な児童が多く、決められたことには真摯に取り組める。一方、新しいことを創造したり自分の判断で物事を進めたりすることには消極的な面が見られる。また、互いに認め合い相手を思いやる気持ちが十分に育っていない面もある。さらに、協力して何かをやり遂げたり、自己の役割を自覚し、自ら考え行動し責任をもって仕事に取り組むことに課題がある。話し合い活動では、児童が自分の考えをうまく表現できなかったり、発言力のある児童の考えに流されて決定してしまったりする場面が見られ

る。指導上の課題としては、児童が主体的に話し合い活動に参加できるようにするための工夫や話し合い活動（収束場面）において、「自分もみんなもよい」解決方法を導き出すための工夫が挙げられる。また学級活動全体を通して児童が仲間意識・役割意識をもって取り組める手立ての工夫なども挙げられる。

そこで本研究では、事前の活動として、全員で協働し解決したいと思える議題を設定し、議題に対して自分事として捉えられるようにする。本時の活動として、みんなが納得のいく集団決定ができるようにする。事後の活動として、実践の経過を振り返りながら、自己評価・他者評価を行い、頑張りを認め合える場を設定し、クラス全体で共有を図ることができるようになる。

このような実践により、よりよい学級集団に向け、仲間と協働して主体的に取り組む児童を育成できるものと考え、本主題を設定した。

### II 研究のねらい

よりよい学級集団に向け、仲間と協働して主体的に取り組む児童を育成するために、議題に対して自分事として捉えるための場の設定、合意形成のための話し合いスキルを活用した話し合いや5ルールの活用、自他評価表（児童の学習到達状況を評価するための判断基準を示し、自己評価・他者評価したもの）を活用した事後の振り返りは有効であるか実践を通して明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

- 1 事前の活動において、必要感・切実感のある議題を設定し、他人事ではなく自分事として捉えさせる場を設定することで、児童一人一人が学級集団の課題解決への意欲が高まるであろう。
- 2 本時の活動において、話し合いスキルを意識した話し合いを行い、収束場面で合意形成のためのよりどころとなる5ルールを活用することで、みんなが納得できる集団決定をする力が身に付くであろう。
- 3 事後の活動において、集団決定後、実践に向けての役割分担や活動内容等についての話し合いを行い、実践につなげることで、役割意識が高まるであろう。また、自己評価表を活用した振り返りの結果を可視化することで互いのよさに気付いたり、よさを認め合ったりすることにつながるだろう。さらに、取組に対するよさや課題を見付けることもでき、仲間と協働して活動に主体的に取り組もうとする意欲が高まるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

##### (1) 仲間と協働して主体的に取り組む児童

仲間と協働して主体的に取り組む児童とは、学級の生活の中から課題を見だし、全員で議題決定し、集団の一員として学級の問題を解決するための解決策を考え、目標達成のために自己の役割を自覚しながら、互いに協力して活動できる児童であると捉えた。

##### (2) 議題に対して自分事として捉える

自分の思いを再考し、「めあてに沿っているか」「解決策として最適な方法か」という点において一度導き出した思いを更に考え直すことである。自分の思いを再考することで、

解決策に向けての話し合い活動やその後の実践にも主体的に参加することができるようになると思う。

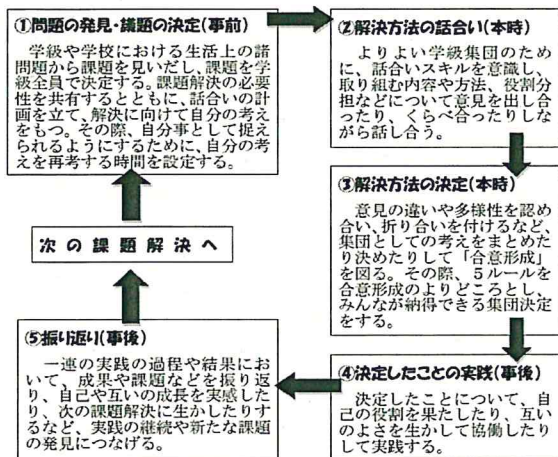
##### (3) みんなが納得のいく折り合いの付け方

自分も友達も納得のいく折り合いをさせるためには、折り合いを付け、最終的に集団の意志決定をする必要がある。合意形成能力を高めさせるためには、話し合い活動において児童の話す力・聴く力が大切である。そのために、合意形成のための話し合いスキル(①共感的に聴く②質問する③理由を明確にして考えを伝える)を身に付けさせる。そして、収束場面において合意形成のための5ルール(①他者の理解を得られない場合は、決まった意見に賛同する②めあてを達成するための最適な解決方法を決定する③それぞれのよい点を組み合わせてもよい④別の時間にできる考えは含めない⑤解決方法として取り上げなくてもよい考えは含めない)を提示し、5ルールをよりどころとし、集団決定に向けての話し合いを行うことで、みんなが納得する集団決定ができるようになると思う。

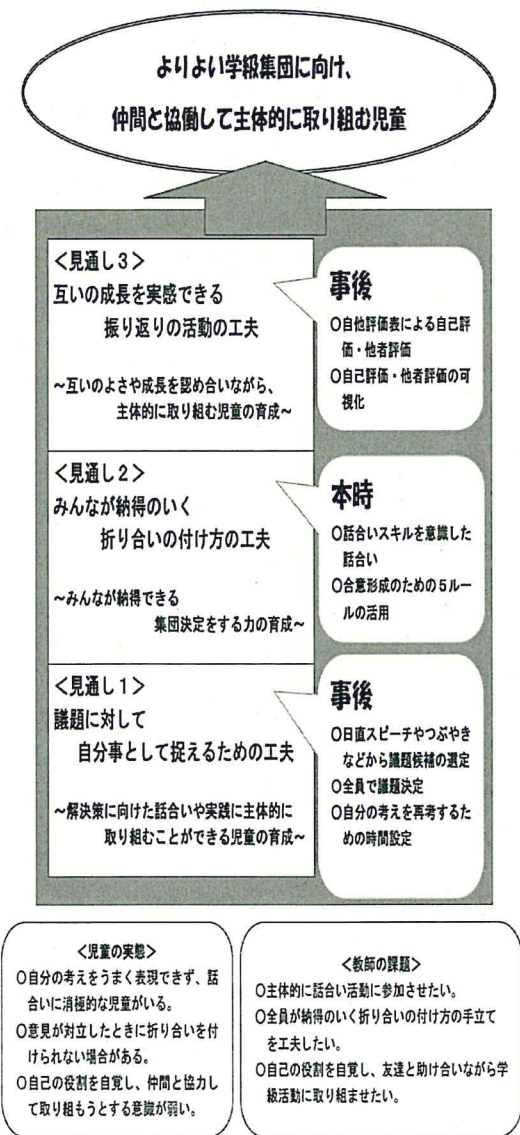
##### (4) 互いの成長が実感できる振り返り

一つの実践を通して、得られた成果や課題について定期的に振り返る場面を設定し、振り返った内容や取組について互いのよさや成長を再確認することができる振り返りを行うことである。その際、自己評価表を活用し、自己評価・他者評価を行い、その内容を共有することで、取組に対するよさや課題を見付けることもでき、よりよい学級集団に向け、次の取組への動機付けになると考える。また、目標達成に向けて、それぞれの立場で何ができるか活動内容等を話し合う活動を取り入れ、実践していく。その中で自己の役割を自覚し、任された仕事の責任を果たそうするなど、集団の一員としての自己の役割を意識することにつながると考える。

(5) 事前・本時・事後のつながり



(6) 研究の構想図



V 実践の概要とまとめ

本研究では、小学校第5学年（児童数 13 名）の学級活動において授業実践を行った。題材は内容項目（1）ーウ「収穫祭を成功させよう」を設定した（表1）。本報告書では、収穫祭に合わせて行った実践をまとめる。

表1 実践の経過と手立て

過程	日程	活動時間	主な活動内容【見通し】
事前	9月～	学級活動 常時活動 (朝・帰りの会等)	○総合「月っ子米をつくろう」の活動を振り返り、多くの方々の協力があり、お米が収穫できたことに気付けるようにする。 ○収穫祭の意義について共通理解する。 ○計画委員会との打合せ ○自分の考えを再考する時間の設定 【議題に対して自分事として捉えるための工夫】
本時	10月19日	学級活動 (本時)	議題「収穫祭『サンキューお米パーティー』を成功させよう」 柱：感謝を伝える方法について ○話し合いスキルを意識した実践 ○収束場面において、合意形成のためのよりどころとなる5ルール-の活用 【みんなが納得のいく折り合いの付け方の工夫】
事後	11月～  12月6日	常時活動 (朝・帰りの会等)  総合	○具体的な内容・役割分担を決定する。 ※自他評価表による振り返り (本番までに係ごとに2回実施) 【互いの成長が実感できる振り返り活動の工夫】 ○「サンキューお米パーティー」実施 ○自他評価表による振り返り 【互いの成長が実感できる振り返り活動の工夫】

1 見通し1

【事前の活動の工夫】

(1) 実践の概要

今回の話し合いは、総合的な学習の時間「月っ子米をつくろう」を通して、米作りに関わってくださった方々に感謝の気持ちの伝え方について決定していこうとするものであった。

児童の「自分たちで作ったお米で料理がしたい。みんなで料理をすともっとみんなの仲が深まると思うから」という思いを大切にしながら、田植えや稲刈り等の写真を提示した。多くの方々の協力があり、お米が収穫できたことに気付けるようにした。また議題「収穫祭を成功させよう」決定後は収穫祭の意義について考え、児童自身が説明できるように

した。その後、計画委員との打合せをもち、めあてや話し合うこと(柱)を決定し、柱:「感謝を伝える方法について」に対して自分の考えを一度まとめた。さらに、教師のコメント(めあてに沿っているか)を受け、思いを再考するための時間を設定し、自分の考えをまとめ直してから本時を行った。

## (2) 結果と考察

「自分たちで作ったお米で料理がしたい」という児童の思いを大切にしながら、多くの方々の協力によって、お米が収穫できたことを想起させた上で、学級会で話し合う内容としてふさわしいかどうか全員で話し合い、議題を決定した。また多くの方々の関わりによって、米作りができたことへの気付きから、全体でその思いを共有し、話し合い活動を行った。そのことで、児童にとって必要感・切実感のある議題決定をすることができ、課題解決への意識の高まりにつながり、その後の学級活動にも意欲的に取り組む姿勢につながったと考える(図1)。

地域の方々を招待して直接感謝の気持ちを伝える会をするのはどうでしょうか。

多くの方にお世話になったし、収穫祭をするのはどうかな。



図1 全員で議題決定している様子

事前の活動として議題に対して、自分の思いを再考させることで、児童はより具体的な解決方法を考えたり相手を意識した内容を考えたりできるようになった(表2)。

表2 学級会ノートから

柱: 感謝を伝える方法について

A 料理: みんなで作ったお米をみんなで食べると楽しいし、うれしくなるから。

→(再考後) みんなにお礼の気持ちやおいしく楽し

く食べてもらいたいと思いながら作ると感謝が伝わると思うから。

B 写真や手紙で感謝の気持ちを伝えたい。

→(再考後) いつまでも残るし、もらったら心が温かくなると思うから。

また、児童は学級会前に自分の考えを再考する活動を行ってきたことで、議題に対して、より深く考えられ、自分事として考えられるようになった(図2)。さらに、学級会のめあてに沿った考えになっているかという点にも目を向けられるようになった。

学級で話し合いをするとき、議題に対して自分事として、真剣に考えている。

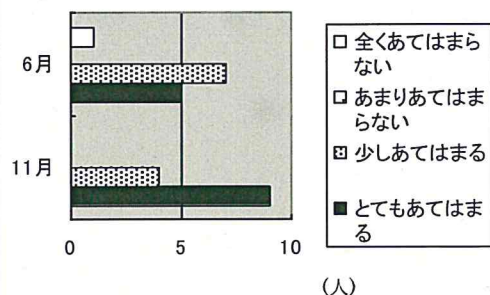


図2 話し合いについてのアンケートから①

発表することが苦手な児童も多く、なかなか積極的に発表できなかつたり、発表する児童が決まってきたりしたが、自分の考えを再考し、理由もしっかりと書けるようになったことで、自信をもって発表する姿につながったと考えられる(図3)。

学級で話し合いをするとき、理由をしっかりさせて、自分の考えを発表している。

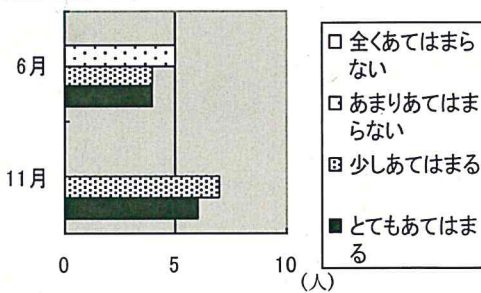


図3 話し合いについてのアンケートから②

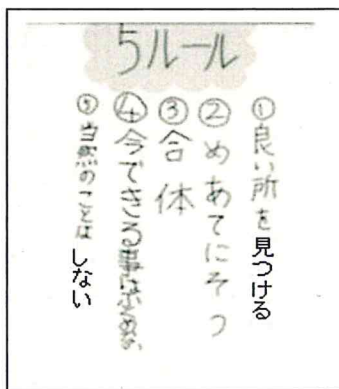
## 2 見通し2

### 【本時の活動の工夫】

#### (1) 実践の概要

話し合い活動において、話す・聴く力が大切になってくることから、話し合いスキルを意識し、話し合いが行えるように4月当初より継続的に指導してきた。また、議題に対してよりよい解決方法になるように、合意形成のためのよりどころとなる5ルールを収束場面において活用した。合意形成のための5ルールにおいては、どのようなルールがあれば「自分もみんなもよい」

解決方法を導き出せるのか児童と一緒に考えた。また、決定した5ルールは児童の言葉で表現し、提示した。さらに、児童が5ルール



を意識して合意形成に向けて話し合いが行えるように、司会から本時の重点ルール（本時は②③）を伝えるようにした。

#### (2) 結果と考察

児童は話し合いスキルを意識した話し合いを繰り返し行ってきたことで、互いの考えを共感的に聴くことができるようになってきた。また、発表する際に共感的に聴いてもらえることで、安心して発表ができることにもつながったと考える（図4）。

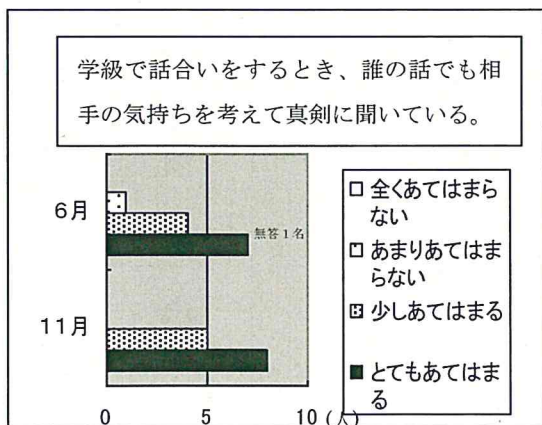


図4 話し合いについてのアンケートから③

そして、相手の意見をしっかりと聞くことができるようになったことで、自分の考えとの相違点について比べながら聞くことができるようになり、分からない点や疑問は、質問し理解しようとする姿が見られるようになった（図5）。（15%→53%）

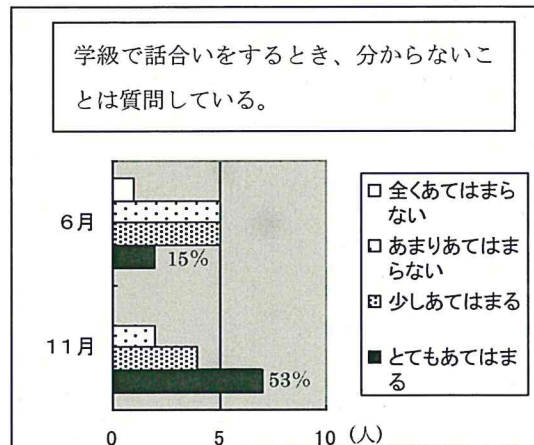


図5 話し合いについてのアンケートから④

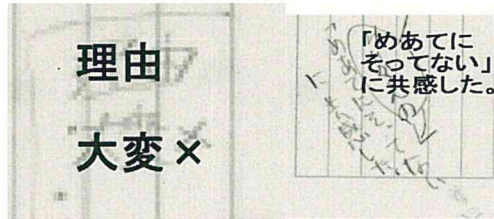
収束場面において、5ルールを提示しながら話し合いを行ったことで、児童はめあてに沿った解決方法になるように意見を出し合えるようになった。また、話が逸れたときには、5ルール「②めあてを達成するための最適な解決方法を決定する（めあてに沿う）」を理由に話を戻せるようになってきた（表3・次項図6）。

表3 話し合いの様子から

- C1 意見が変わって、贈り物はなくてもよいと思います。理由は、人数が多いし、大変だからです。
- C2 C1さんに賛成です。理由はマスコットを作るのは大変だからです。
- 司 今日めあては「感謝の気持ちを伝えるには…なので、大変だからはどうでしょうか。
- C3 司会の話聞いて、贈り物をするというのは賛成だけど、めあては「感謝の気持ちを伝えるにはどうしたらよいか考えよう。」だから、作るのが大変というのは、めあてに合っていないと思います。

C2 「めあてに沿ってない」という C3 さんの意見に共感した。

C1 理由 大変×



C2 贈り物を決めるときに、みんなの意見を聞いて、今日のめあてのことや5ルールのことに気付けた。今度からはもっと、めあてや5ルールにそって、意見を出したい。

図6 学級会ノートから

また、児童はグループや全体で話し合う際に5ルール「③それぞれの考えのよい点を組み合わせてもよい」を意識して、「よりよい解決方法にするためには、どう組み合わせたらよいか」と考えながら、合意形成を行う力もついてきた(表4、図7)。

表4 話し合いの様子から

<出し合い・比べ合う場面>

C4 手紙を送るのがよいと思います。理由は手紙はいつまでも残し、感謝の気持ちが伝わると思ったからです。

C5 C4さんの意見と同じです。料理だけでは感謝の気持ちは伝えきれないし、言葉や手紙で気持ちを伝えた方がよいと思ったからです。

C6 C5さんの意見と同じです。写真も一緒に贈ると良いと思います。

<まとめる場面>

C7 手紙と写真を組み合わせて、手紙に写真を貼って贈るのはよいと思います。

C8 C7さんの意見に賛成です。理由は、写真を添えるとその時のことが思い出せるからです。

C9 みなさんに賛成です。理由は写真も手紙もいつまでも残って、感謝の気持ちも伝わると思ったからです。

一緒に育てたお米だから、料理してみんなで食べられるといいよね。



手紙は感謝の気持ちが伝わりやすいから手紙と写真を合わせて、寄せ書きにするのはどうかな。

図7 グループで話し合っている場面

### 3 見通し3

#### 【事後の活動の工夫】

##### (1) 実践の概要

話し合いで決定したことを準備・実践していく中で自己評価表を活用し、自己評価・他者評価を行った。その際、判断基準Bは教師から提示し、判断基準Aについては、B基準を参考に、児童と一緒に決定した。判断基準決定後は、5つの係に分かれ、係ごとに定期的に自己や他者の活動の様子について振り返り、頑張っていたこととアドバイスなどを記入し、互いの励みにし、教室掲示をした。

##### (2) 結果と考察

自己評価表の判断基準Aを児童と一緒に決定したことで児童は目指す姿が明確になり、準備・実践への意欲が高まり、主体的に係活動に取り組む姿につながったと考える。また、係ごとの仕事内容を明確にしたことや収穫祭までの流れをカレンダーにまとめたことで、係ごとに責任感が増し、仕事をやり遂げようという意欲を高めることができた(図8)。

喜んでもらえる寄せ書きにするには、どんなデザインがいいのかな。



決めることが多いから、計画的に進めていこう。

図8 係ごとに活動している様子



## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

- 学級活動での話し合いに向けて、議題を児童のつぶやきや日直のスピーチ等から選定し、全員で議題を決定し、議題決定後に自分の考えを再考する時間を設定した。このことにより、児童が議題に対して自分事として捉え、課題解決への意識が高まり、更には、話し合いに意欲的に参加することにつながった。
- 話し合いスキルを意識した話し合いや合意形成のためのよりどころとなる5ルールを活用した話し合いを繰り返す中で、めあてに沿った話し合い、みんなが納得のいく集団決定ができるようになってきた。また、5ルール「④別の時間にできる考えは含めない」、「⑤解決方法として取り上げなくてもよい考えは含めない」に関しては、当たり前のルールとなり、自分の考えを再考する段階から④⑤のルールを省いた解決方法を考えられるようになった。
- 学級活動の話し合いで決定したことを準備・実践する段階において、振り返る場面を設定し、自他評価表を活用したことは、児童が事後の活動を進める上で目標を確認し、自己を振り返る点で有効であった。また、係ごとに振り返り、仲間の頑張りやアドバイスを書くことで実践への意欲を継続しながら収穫祭に向けての主体的な活動につながった。

実践の最終のまとめにおいても自他評価表による自己評価・他者評価を行った(表6)。

表6 自他評価表を活用した自己評価(実践後)

- ・来てくれた方がにこにこしていたので、よかった。サンキューお米パーティーが成功してよかった。
- ・手紙係として寄せ書きを完成させて、しっかりJA青年部の方々に気持ちを込めて渡せた。3学期

はもっと係活動を頑張ろうと思った。

- ・来てくれる方々のことを考え、行動できた。来てくれた方々が「おいしい」と言ってくれたので、嬉しかった。収穫祭を通して、相手の立場に立って、行動することの大切さを学んだ。
- ・美味しい料理を作れてよかったです。係のみんなで頑張った成果が出ました!
- ・みんなでオムライスやサラダを作れてよかった。地域の方も嬉しそうにしていたのでよかった。よい1日になりました。

以上のことから、仲間のよさや成長を認め合い、また協力して取り組むことのよさに気付いたり、協力して物事を成し遂げた達成感を得たりすることにつながった。また、自己の役割を自覚し、よりよい学級集団に向け、主体的に活動に取り組もうとする児童を育てるのに有効であった。

### 2 今後の課題

- 合意形成のためのルールについては、学級活動を積み重ねるにつれて、児童の実態にあったルールに変えながら、更に児童の実態に合ったよりよい合意形成のためのルールになるように検討していく必要がある。

#### <参考文献>

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版(2008)
- ・群馬県教育委員会『はばたく群馬の指導プラン 実践の手引き』(2014)
- ・前橋市教育委員会『まえばし学校教育充実指針』(2017)
- ・文部科学省、国立教育政策研究所、教育課程研究センター『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』(2016)
- ・『心を育て、つなぐ特別活動～道徳的实践へのアプローチ』文溪堂(2014)